



# コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュースレター No. 136

2014年8月



## アルゼンチン宣教 (その3)

コルネリオ会 会員 圓林 栄喜

在原宣教師が、アルゼンチン宣教に導かれるまでの神様の働きについて、在原宣教師の証を前回に引き続き紹介します。

### 4 アルゼンチン宣教準備期 (日本での神の導き その2)

また、次のような主のことばが私にありました。「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者として定めていた。」(エレミヤ1章4, 5節)

1987年のその日、アルゼンチン宣教の扉が開かれた私たち家族は、年末までに衣類と書籍以外のものをすべて処分し、渡航前にJICA(国際協力事業団)から指定されていた「海外移住センター(横浜市根岸)」に入り、ここで10日間の研修を受けることになりました。1月10日だったと思います。当地では「スペイン語」をはじめ、「日本人の移住史」、「文化的適応」、「移住する現地の問題点」等々、かなり密度の濃いカリキュラムだったと思います。移住者の証言や現地の映像から南米移住の実際を見聞することで、意識はかなり変革されたと思います。良い意味での緊張感を有し、現実に身構えることになりました。移住者としての意識を高める時としてこの10日間は極めて貴重な時を過ごすことになりました。この時に受けた研修が、アルゼンチン渡航後に始まる、幾度かの逆境の壁を乗り越えることに役立ちました。研修期間をキリスト信仰の世界で言えば「力を受けるまで、エルサレムにとどまっていなさい」というところでしょうか。

すべての準備が整い、「いざ出陣」という出国の3日前のこと、私の心に一人のクリスチャン姉妹(横浜市在住)の思いがやってきたため、急きょ電話をすることになりました。この方は、元伝道者として仕えておられた方で、過ぐる4年間、私たちの宣教準備期において、過分とも思える支援をしてくださった方でした。「この方にお会いし、何としてもお礼を述べねば」と、衝動に押されるように電話した私は、それまで示された数々のご配慮に対しお礼を述べるつもりでいたのですが、しかし、「主の栄光」だけのために生きることを宣言するこの姉妹は、私からの感謝の言葉を一切受け付けることなく、開かれた「みことば」をもって私を励まして下さるだけでした。いよいよ「出発日」の前日のことでした。その姉妹から便箋3枚の手紙が「移住センター」の私宛に送られてきたのです。内容を簡単に言いますと、次のようなものでした。

「在原師に対する私からの宣教支援について、御礼など一切不要です。それは、今から約20年も前のことでした。それは、御殿場で開かれた「夏季聖会」の3日目の晩のことでした。その夜、聖会は聖霊様の激しい油注ぎを受けて盛り上がり、定刻を過ぎても終わることなく続き、終盤に民たちは主の前にひざまずき、祈りの会衆となっていたのです。その時です、半分消灯した集会場の目の前に「幻」が現れ、その「幻」の中に、「在原兄」がどこか他の国で「宣教活動」をしているというものだったのです。その夜の「幻」を通し、あの兄弟(在原)は、いずれ「宣教師」として派遣されることになるであろうことを、今日まで確信して来たのです。同じ「幻」は、集会場で隣に座っていた

妹も見ていたため、私たちは「在原兄イコール宣教師」ということをいつも語り合ってきたのです。在原兄に対する今日までの捧げものは神様の導きによるものです。当然のことをしたまでのことですから、個人的にお礼を述べる必要はありません。」

「脳天をハンマーで叩かれるような衝撃」とはこのことを言うのでしょうか。約20年前のその日とは、逆算すれば、私が20歳前後のことになりましょう。当時の私は大学入学を果たした直後で、教会生活は従順だったと思いますが、信仰の「霊的レベル」はヨチヨチ歩きの子程度ではなかったかと思います。将来に「献身」する思いなど全くなく、まして「宣教師」

として海外で働くことすら思いの片隅にもありませんでした。自ら人格を見るならば「献身者」としての資格すら感じないレベルの者だったのです。しかし、そんな愚かな器に対しても、神様の私に対する「創造の目的」は明確だったわけで、私の将来に対する御計画は、永遠の昔から設定されていたことを知り、心は感動で激しく震えたのです。「主の道を、主とともに歩むことで、この戦いは必ず勝てる」。過ぐる4年半にわたる訓練行程は、まさに「力を受けるまでエルサレムにとどまる時」で、それは、主から供えられたことを確信することになりました。

(次回に続く)

## 2013年度総会報告

5月10日(土)、2014年度コルネリオ会総会を馬橋キリスト教会の一室をお借りして実施しました。2013年度の活動報告・会計報告と2014年度の活動計画・予算計画及び役員人事の審議がありました。

また、2014年度の活動計画、役員人事、会計決算及び予算は以下のようになっています。異議のある方は会宛て1ヶ月以内に申し立ててください。

### 2014年度コルネリオ会活動計画

#### 1 方針

コルネリオ会は、主から与えられた使命を果たすため、例会およびニュースレター等の活動を活性化し、会員の霊的成長および国内外との連携を追求する。このため、2014南アフリカ世界大会への参加と支援を行う。さらに2015Interaction Japan(軍人クリスチャンリーダー研修会、日本開催)を準備するとともに、特に現役会員の使命が達成されるように、毎夕お互いに祈り合い、コルネリオ会の魅力化を図るとともに、新来訪者を歓迎する。

#### 2 活動要領

##### (1) 例会

ア 例会は、原則として毎月第2土曜日に開催する。

イ 学び会は会員の霊的成長につながる集会となるようなプログラムとする。

また聖書の学びに加え、祈り会や在日米軍クリスチャン等との交流を実施し、特に現役会員の使命が達成されるように、コルネリオ会の魅

力化を図る。

ウ 役員会は学び会前後に必要な最小限の時間で実施する。この際、霊的一致が図られるよう祈りの時間を重視する。また必要があれば臨時役員会を開催できるようにする。

エ 新来訪者を歓迎し、共に学び交わる環境を醸成していく。

##### (2) 広報

ア 会員の証しや学び会での恵み等、ニュースレターの記事をさらに会員の霊的成長につながる内容に改善し、会員の会活動への参画意欲を醸成して行く。

イ 中央からの情報発信だけでなく、地方でのコルネリオ会活動(沖縄支部・関西支部・東北支部)の情報提供にも心がける。

##### (3) 宣教

ア ホームページを更に活かし、例会の状況、各国AMCF等のホームページの日本語での紹介等を実施して会員等が活用しやすいホームページ作りに着意する。

イ 韓国軍人クリスチャンおよび防大生との交わりを継続し、信仰を深め励まし合う。

ウ 宣教団体との協力を継続し、会員の霊的成長につながる情報を提供していく。

##### (4) 国外活動への参加と支援

ア AMCF(世界軍人キリスト者の会)及び

ACCTS (AMCF の教育支援機関) との連絡・調整を維持し、相互の意思疎通を図る。

イ 2014 世界大会の参加を会員に勧め、大会に必要な支援を実施するとともに、2015 Interaction Japan の準備 (規模・開催日時・場所等) をする。

#### (5) 会 計

ア 世界大会への支援献金、活動の運営資金が備えられるよう、ニューズレター等を通じて折り求めるとともに、支援者の獲得に努める。

イ 予算の効率的な使用に心がける。

ウ 2015 Interaction Japan の開催資金を備える。

#### 2014 年度予算

(2014. 4. 1 ~ 2015. 3. 31)

1 収入	前年度繰り越し	¥764,722
	献金	¥500,000
	利息	¥100
	合計	¥1,264,822
2 支出	講師等への謝礼・支援費	¥40,000
	ニューズレター作成・発送費	¥90,000
	新聞雑誌広告費	¥20,000
	集会/例会費	¥10,000
	慶弔費	¥20,000
	接待交際費	¥5,000
	旅費・交通費 (国内・国外移動)	¥0
	事務通信費	¥8,000
	雑費 (振り込み手数料)	¥7,500
	献金 (国内教会等へ)	¥30,000
	世界大会参加費 (3 人分)	¥240,000
	2015 Interaction Japan 準備金	¥200,000
	次年度への繰越	¥594,322
	合計	¥1,264,822

#### 役員人事

役職	2014 年度
会長	石川信隆
副会長	今市宗雄、中野久永
総務	圓林栄喜、檜原菜都子
渉外	中野久永、藪内隆志
広報	圓林栄喜、芝 祐治、中村誠一 (沖縄支部)、松山暁賢 (東北支部)
会計	長濱貴志
監査	伊藤忠臣、玉井佐源太
教職顧問	金学根、井草晋一、徳梅陽介
名誉会長	矢田部稔

#### 2013 年度決算

(2013. 4. 1 ~ 2014. 3. 31)

1 収入	前年度繰越金	¥741,664
	献金	¥434,000
	利息	¥38
	合計	¥1,175,702
2 支出	講師・謝礼費	¥0
	ニューズレター作成・発送費	¥79,360
	新聞雑誌広告費	¥12,600
	集会費・例会会議費	¥1,920
	慶弔費	¥16,300
	接待交際費	¥13,000
	旅費交通費	¥0
	事務通信費	¥20,890
	雑費 (振り込み手数料)	¥6,910
	献金 (国内教会・海外へ)	¥60,000
	献金 (世界大会へ)	¥200,000
	小計	¥410,980
	2012 年度への繰越	¥764,722
	合計	¥1,175,702

#### みことばの支え

コルネリオ会 会員 宮下和之

5 年ほど前、49 歳の時に 30 年務めた自衛隊を退職、以後、介護職員として現在に至っております。順調に努めれば今年の 1 月に定年を迎えられたわけですが、鬱病になり部隊のお荷物になったと感じた時、この状態で良しとはできない自分がいたことに気づき、退職を決意しました。

それまでに至る経緯を書きたいと思います。私は 45 歳の時に人間関係の問題により鬱病を発症しました。2 年間新しい職場で勤務しましたが、その間、どのような人とかかわったのか、どのような仕事をしていたのか、まったく記憶がありません。ただ毎日、自分の気持ちと闘いながら勤務していたように思います。

当然、家庭内でも、会話や笑い声もなく食事のあとは、早々に布団の中にくるまり寝ているだけだったように思います。妻にも大きな負担をかけ苦しめました。わかっているけれども、どうしようもできない自分がいて、いらだちと無気力と自己嫌悪に陥り、毎日死ぬことや、この場から逃げる事ばかり考えていました。聖書も読めず、祈ることもできず、ただ 2 週間に一度、心療内科の帰りだけ、教会の礼拝に行くことは出来ました。

すべての、趣味が中断した中でコーヒーを点てる

ことだけが残りました。おそらくその香りが、気分を和らげたものと思います。ある日、接触事故をおこし、トラブルに巻き込まれてしまいましたが、いつも取り寄せているコーヒー店からコーヒーと合わせて、店主の思いが込められたメッセージカードが送られて来ました。そのカードには「マタイの福音書6章25節から34節（文語体）」が書かれていました。店主はクリスチャンではありませんし、私が鬱であることや車の事故で苦しんでいることなど知るはずありません。

神様が取り計らってくれたものと、確信をしております。

今でもそのメッセージカードは、聖書にはさんでいます。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」ヨハネの福音書3章16節。今考えると、このみ言葉が隠されていたように思います。

やがて、転属となりました。鬱のままだったので使い物にならず、休む事ばかり考えていました。さまざま理由をつけて、休もうとしました。時には妻を病気にしてまで。さすがに、親や兄弟を殺すことはしなかったですが、上司はそんなことはお見通しで、取り合ってくれません。一年後、どうにもこうにも、心がということがきかなくなり、職場を逃げるように自衛隊札幌病院に入院をしました。退院まで3か月かかりました。入院中、回復プログラムを組まれていくうちに、冷静に物事を考えられるようになり、定年後はこのような仕事につけたらいいな。と何気なく思っていました。退院後、色々調べていくうちに看護師は無理かもしれないが、介護士ならなれるかもしれない。と定年後の人生の選択肢の一つに入れていました。

とりあえず、元気になり、3か月後職場復帰を果たし、さあやるぞ！と思っておりましたが鬱を患って3年間に自衛官としての体力、技術、力が全くなくなっていることに気づかされたのです。そんなとき、妻が急死しました。鬱から立ち直りこれから二人で生活を立ち直らせよう、楽しもう、妻には苦勞をかけたのだから。と思っておりましたが、妻は自分の役目を終え

たかのように天に召されたのです。

妻の死後の荒れる生活の中で、今の妻が慰めてくれた時、み言葉が与えられました。マタイの福音書6章25節から34節です。彼女とは静内の部隊にいた時から、同じ教会で信仰をもっていましたし青年会で交わりを持っていました。先の妻とも友人関係だったことと、お互いに相談をしあっていたので、これまでの事を受け止めてくれるとの確信もありました。喪が明けた時、再婚をしました。

また、自衛官としての役目を果たせなくなっていたこと、周りから馬鹿にされ、自分のプライドが傷ついていたこと、そして5年後、定年を迎えた時、元気なままで入れるのだろうか？うつ病になっていないだろうか？そのような不安がありました。どうしたらよいか、主に祈りました。そして、マタイの福音書6章25節から34節を与えられ、私は自衛隊を中途退職しました。

さて、振りかえると人生において3回も同じみ言葉が与えられているのです。しかも、それぞれの人生の節目において。神様は何を言わんとしているのでしょうか。たぶん、「心配事はたくさんあるけれど私を信頼しなさい。お前に必ずついてあげるから。心配事がたくさんあることは信仰が薄いこと。私を信頼せよ。まず、神の国とその義を求めよ。それらのものはすべて与えられるから。」私は、そのように解釈しています。

介護の世界に入って5年。介護福祉士になって1年。まだまだ、半人前ではありますが、み言葉を胸に収め今の妻と祈り合いみ言葉を分かち合いながら、歩んでいきたいと思えます。そして、この世の役目を終えた時、主の前に立った時、「み顔をきちんと見られるように」、そして胸を張り「自分のなすべき事をしてきましたと堂々と言えるように」なりたいたいと思えます。

（編集子）

NLの読者を募集中です。NLに関心のある方、NLを読んでいた方がいたら提供ください。